

第2学年 学級活動（1）指導案

指導者 小林 充子

1 議題 「ばあばの会」の方にサプライズをしよう

2 議題について

（1）児童の実態（男子14名、女子10名、計24名）

本学級の児童は、明るく元気いっぱい、友達と仲よく学校生活を楽しんでいる。学習におけるグループ活動や係活動では、みんなで力を合わせ、互いに声をかけ合いながら、よりよいものをつくり出していこうと積極的に取り組む姿が見られる。常に周りの友達のことを考えて上手に関わることができる児童がいる一方、自信のなさから自分から働きかけることができず、個別に声をかけないと集団の中に入ろうとしない児童や、やる気はあるものの自分の思いが先行し、協力という点で課題の見られる児童も数名いる。学校生活についてのアンケートでは、多くの児童が「学校は楽しい」「みんなで何かをすることは好きだ」と答えているが、中には「自分の思いを友達に伝えるのは苦手だ」「大勢の人と関わる活動は恥ずかしくて苦手だ」と答えている児童も2割程度いる。

これまで児童は、「学級の旗を作ろう」「5年生とよろしくねの会をしよう」などを議題として学級会を行ってきた。5年生との交流に向けての話合い活動では、5年生のことを知るためにはどんな活動をしたらよいか、どんな工夫をしたら自分たちのことをもっと知ってもらい仲よくなれるかなど、これまでの経験を思い出しながら自分の意見を言ったり、友達の考えを聞いたりできた。実際の話合いでは、柱1で事前に自分の考えをもって臨むことで、出された意見に対し、理由をつけて賛成・反対意見は言えるようになってきている。しかし、柱2では、発言する児童に偏りがあり、なかなかアイデアが出なかったり、友達の意見のイメージがもてなかったりと話合いが一部の児童で進められることも少なくない。また実際の活動では、5年生のことを知ろうと自分から進んで関わるなど積極的に活動ができる児童もいるが、友達のリードがなければ自ら進んで活動に向かえない児童や、自分の役割をしっかりと果たすことに関して課題が見られる児童も数名いるのが実態である。このように、みんなで考え、いっしょに活動することを通して、話し合うことの大切さや力を合わせてすることの楽しさを実感することができるようになってきたよさがあるものの、学級会や実際の活動において、消極的な態度が見られる児童がいるなどの課題も明らかになってきた。そこで、学級の集会や係活動などいろいろな場面で、みんなで決めたことをみんなのためにしっかりとやり切ることを常に意識しながら、全員でとことん話し合い、全員で力一杯活動する姿をめざしているところである。

（2）議題選定の理由

本校には、子供たちのために何かしたいという強い思いを持って活動してくださる学校支援ボランティア「ばあばの会」がある。季節に合った玄関飾りの制作や家庭科での学習支援などいろいろな場面で学校教育を支えてもらっている。2年生の児童は、かけ算を聞いてもらったり、いっしょにエコ工作をしたりして交流を重ねてきた。これまでの交流を通して、自分たちのしたことに温かい言葉をかけてくださったり、喜んでくださったりしたメンバーの方に何かお礼がしたい、自分たちの気持ちを何らかの形で伝えて喜んでもらいたいという学級全体の思いから、この議題が選定された。

（3）指導にあたって

指導にあたっては、話合いを通して、「友達の考えをしっかりと聞く力」や「自分の思いをはっきり伝える力」を、話合い後の活動では、自分に任された仕事は友達と協力しながらやり通す「協働的課題解決力」を育成したい。まず、どんなことをしたら自分たちの思いが伝えられるか、喜んでもらえるかなど、「ばあばの会」を意識した話合いにするために、いっしょに活動したときの写真やVTRを準備したり、メンバーのプロフィールを掲示したりする。また、インタビューをすることで「ばあばの会」の方の思いや願いを知り、交流の中で交わした会話などを記録に残すなどして「ばあばの会」の方に対する思いを高めていきたい。全員参加の話合いをめざすため、どの児童も意見が言えるよう事前に自分の考えを学級会個人ノートに書いておき、自信をもって話合いに臨めるようにする。柱2の「分かり合う」の場面では、出された工夫について絵に描いたり実際にやってみたりして、みんなに正しく伝わった上で話合いが進められるようにする。「生かし合う」の場面では、教師が話合いの焦点化を行い、より提案理由に近いものへと導くようにする。また、全員で力一杯取り組む活動をめざすため、見通しを立てたり、自分の役割や友達との関わり方についてふり返ったりすることで、協力して一つのことに取り組むためには一人一人が任された仕事をやり遂げることが大切だと実感させたい。「ばあばの会」の方にサプライズをすることを通して、自分たちの思いを届けることが相手の喜びにつながることを実感し、さらには役立ち感や自己有用感を感じさせたい。実際の活動では写真やVTRなどの記録を残し、自分や友達の姿をふり返ることで、今後のよりよい活動につなげることへの手立てとする。みんなで話し合い、

協力して準備や活動をする経験を重ねることで、いっしょに活動することの楽しさや喜びを感じさせ、児童同士の関わりを深めていきたい。

3 第1学年及び第2学年の評価規準

多様な他者と協働するために必要な知識・技能	集団や社会をよりよくするための思考・判断・表現	主体的に集団活動や生活をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しむために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、問題を解決する方法を身に付けている。	学級生活を楽しむために、課題を発見し、解決方法について話合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲よく助け合って実践している。	学級生活を楽しむために、見通しをもったりふり返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

4 活動の経過

	月 日 (曜日)	活動の場	活動の主体	活動の内容
事前	10月 5日 (月)	休憩時間	計画委員会	議題の選定
	10月 6日 (火)	朝の会	全員	学級会の予告
	10月 7日 (水)	かがやきタイム	全員	議題の決定・提案理由の確認 学級会個人ノートに自分の考えを記入
	10月12日 (月)	休憩時間	計画委員会	学級会個人ノートの集計
	10月13日 (火) ～ 10月20日 (火)	休憩時間 かがやきタイム	計画委員会 全員	まとめた意見の中から話合いを進めることの周知 柱1「分かり合う」 それぞれの意見についての共通理解
	10月16日 (金)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月19日 (月)	休憩時間	計画委員会	進行打ち合わせ
	10月21日 (水)	休憩時間	計画委員会	話合いの流れの最終確認
本時	10月23日 (金)	学級活動	全員	第7回学級会 「ばあばの会」の方にサプライズをしよう
事後	10月26日 (月)	かがやきタイム	全員	役割分担
	10月27日 (火) ～ 10月30日 (金)	休憩時間	全員	準備
	11月 2日 (月)	かがやきタイム	全員	ばあばの会の方を招待 ふり返り

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分の考えをはっきり伝えたり、友達の考えをしっかりと聞いたりして話し合い、お世話になった「ばあばの会」の方が喜んでくださるサプライズの内容やその工夫を決めることができる。

(2) 児童の活動計画

第7回 学級会 個人ノート

名前 ()

議題 「ばあばの会」の方にサプライズをしよう		10月23日(金) 2校時	
提案理由	2学きになり、かけ算や生け花など、ばあばの会の方にはたくさんお世話になりいろいろなことができるようになりました。そこで、みんなで力を合わせてばあばの会の方がよろこんでくださることをしたいと思います。そうすれば、ばあばの会の方が、うれしい気持ちになり、また楽しい思い出ができと思ったのでついあんしました。		提案者
話し合いのめあて	柱1・・・それぞれのいけんのよさを考えて、みんなの力を合わせてできるおかえしのないようをきめよう。 柱2・・・ばあばの会の方によるこんでもらえるためのくふうについて考えよう。		
決まっていること	・日時：11月2日(月) かがやきタイム 15分間 ・場所：教室 ・準備に使える時間は、学級活動の時間1回分。残りは10月26日～30日までのかがやきタイム4回分		
役割	司会	黒板	
	司会	黒板	
話し合いの順序			
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の発表 5 話し合い 6 決まったことの発表 7 先生の話 8 終わりの言葉			
時間	話し合うこと	自分の考え・理由	
20分	柱1 (15分) サプライズは何をするか	(例) かけ算 大合唱 ・覚えたかけ算を聞いてもらう。 学級の歌 大合唱 ・自分たちで作った学級の歌を聞いてもらう。 メッセージ ・一人一人メッセージを考えて伝える。	
15分	柱2 (20分) よろこんでもらえるためのくふうについて考えよう	(例) <かけ算> ・段ごとにグループを作って、順番に言う。 ・リズムよく言うために、太鼓をたたく。 ・段と段の間に、かけ声を入れる。 ・少し身振りを入れる。(動きをつける。) ・みんなで考えた「九九のなぞなぞ」を出す。(参加型) <学級の歌> ・ばあばの会の方を囲んで歌う。 ・いっしょに歌ってもらうため、歌詞カードを作って貼る。 ・一部分歌詞を変えて、替え歌にして聞いてもらう。 ・いっしょに身振りを付けて踊る。 ・間奏の部分にメッセージを入れる。 <メッセージ> ・一人一人順番に言う。 ・ばあばの会の方を囲んで言う。 そのほか ・最後のサプライズに何かプレゼントを贈る。 ・プレゼントは、隠しておく。 ・みんなでかけ声をかけて渡す。 ・一人に1つずつ渡せるようにする。	

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉		【知識・技能】 - これまでの学級会の経験を生かして、話合いの進め方について理解している。 ＜観察＞ 【思考・判断・表現】 - 友達の意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりして、より「ばあばの会」の方が喜んでくださるための工夫を考えている。 ＜観察＞
2 計画委員会の紹介 3 議題の確認 4 提案理由とめあての確認 決まっていること 先生の話	- それぞれの役割を意識しためあてがはっきり言えるように指導しておく。 - これまでの交流の様子やみんなの思いを掲示し、お世話になったことを思い出させるとともに、提案理由のキーワードをおさえ、話合いを進めていくことを確認する。	
5 話合い (1) 柱1 サプライズは何にするか。 ・比べ合う ・決める	- 事前に学級会個人ノートに自分の考えを書いておく。 「出し合う」「分かり合う」までは事前に済ませておき、「比べ合う」から話合いに入る。 「比べ合う」では、理由付けとすればあばの会を意識したものとなるよう助言する。 - 賛成の理由として具体的な工夫が出された場合、柱2で話し合うことを伝える。 「決める」では、提案理由にある「ばあばの会の方がうれしい気持ちになる」「楽しい思い出ができる」を意識して全員が納得の上決めるようにする。	
(2) 柱2 どうしたら喜んでもらえるか考えよう。 ・出し合う ・分かり合う ・生かし合う ・決める	- これまでの経験を思い出させ、ばあばの会の方に喜んでもらうためにどんなことができるか考えさせる。 - ばあばの会のことを考えた工夫を考えるよう助言する。 - 出された質問について、言葉だけで理解できない場合、実演や絵にかくなど具体的なイメージが共有できるようにする。 「生かし合う」の話合いの焦点化については教師が行い、ポイントを絞って話合いが進められるようにする。 - 出された意見が本当に実現可能かどうか、一つずついいねを確認しながら進めていくようにする。	
6 決まったことの発表		
7 先生の話	ばあばの会のことを考えた発言や、喜んでもらうための工夫について発言した児童の称賛、今後の課題、計画委員会への労い、今後の活動の見通しや実践に向けての意欲付けなどについて簡潔に述べ、事後の活動や今後の話合い活動に意欲的に取り組めるようにする。	
8 終わりの言葉		

6 事後指導

- 話合い後に役割分担決めをすることを事前に伝え、全員が活躍できる役割を考えられるようにする。
- 役割分担に沿って協力して準備ができるよう助言する。
- 準備や活動の中で、児童が責任を持って取り組む姿や協力して取り組む姿を見つけ、称賛していく。
- 活動後ふり返りを行い、今回の活動の達成感を共有するとともに、今後の活動に向けての意欲につなげる。